

## Si-R370 V35.08 変更内容一覧

### □機能追加・改善

| No. | 項目        | 追加内容  |
|-----|-----------|---|
| 1   | シェーピング機能  | 実回線上の送出速度を考慮した最大送出レートの調整を行い、シェーピング設定レート上限の精度改善を行いました。   |
| 2   | メモリ予兆監視機能 | メモリ資源の使用状態を設定された閾値に基づいて周期的にチェックし、下記動作を行うメモリ予兆監視機能(デフォルトで機能は有効)を追加しました。<br><ul style="list-style-type: none"> <li>・システムログ表示のみであり装置は動作(運用)を継続する。</li> <li>・システムログ表示後に設定された閾値に達した場合に装置を再起動する。</li> </ul> |

### □修正内容

| No. | 影響範囲          | 内容   |
|-----|---------------|--|
| 1   | V31.00～V35.06 | DHCPリレーエージェント機能使用時にlan定義の動的定義変更を実施すると、以降リレー動作を行わなくなる場合がある。   |
| 2   | V30.00～V35.06 | 帯域制御設定でACL定義と旧形式定義とが混在した設定を行った場合に、定義の削除を行うと装置が再起動する場合がある。  |
| 3   | V35.00～V35.06 | IKEv1 Dead Peer Detection(DPD)有効時に、IPsec/IKEパケットが送出されるインタフェースがダウンしてもDPDによるSA解放が行われない。                          |
| 4   | V21.00～V35.06 | Webブラウザにて本装置へアクセスする際に、画面が表示されない場合がある。  |
| 5   | V30.00～V35.06 | 同一装置上にて動的VPNサーバ+クライアント設定が共存する環境において、動的VPNクライアント設定の動的定義変更を繰り返し中に"show dvpn server user"コマンドを実行すると装置が再起動することがある。 |
| 6   | V21.00～V35.06 | 接続先監視時間設定の動的定義反映による削除を行うと、監視時間が1秒間隔となる。  |
| 7   | V21.00～V35.06 | テンプレート着信機能でのCLID相手判定が正しく行われず、接続できなくなることがある。  |